様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２６０６
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｈ０１６３１

研究課題名（和文）学校改革と授業革新のアジア・ネットワーク―学びの共同体の実証的研究―

研究課題名（英文）Asian Network for School Reform and Teaching Innovation: Research on School as Learning Community

研究代表者
佐藤　学（Sato, Manabu）

学習院大学・文学部・客員所員

研究者番号：７０１３５４２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,350,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、アジア諸国を中心に普及している日本発信の「学びの共同体の学校改革」の研究と実践の国際協同を目的として推進された。新型コロナによって海外渡航と対面式国際会議が不可能となり、どの国でも休校と学びの規制が実施されるなかでも、「21世紀型の授業と学び＝探究と協同の学び」を各国の事情に対応して推進してきた。その結果、多くの制約にもかかわらず、本プロジェクトは、研究においても実践においても顕著な前進を遂げた。第8回目の国際会議（2020年度）は、これまでの規模をはるかに超える31か国2,100名の研究者と教師、第9回国際会議（2021年度）には21か国2,000名の研究者と教師が参加した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、2000年代以降、アジア諸国の学校改革（授業と学びと学校行政の改革）において最も影響力を持ち続けている「学びの共同体の学校改革」の研究と実践の国際ネットワークを基盤としている。この改革は研究代表者が1990年代に提唱し、世界各国に普及した学校改革の研究と実践であり、多くの国で研究と実践のネットワークを形成し、いくつかの国においては国家政策もしくは準国家政策になっている。本研究は、それらの国々の研究と実践の国際交流を行い、各国の教育改革の推進を担っている。

研究成果の概要（英文）：This research project was promoted for the purpose of international collaboration in research and practice of "school as learning community" originating in Japan, which is spreading mainly in Asian countries. Even though the COVID-19 made overseas travel and face-to-face international conferences impossible, and every country implemented school closures and restrictions on learning, we have promoted "21st century-style teaching and learning = inquiry and collaborative learning" in response to the circumstances in each country. As a result, despite many restrictions, the project has made remarkable progress in both research and practice. The 8th International Conference (FY2020) was far larger than ever before, with 2,100 attendees from 31 countries. The 9th International Conference (FY2021) was attended by 2,000 researchers and teachers from 21 countries.

研究分野：教育学

キーワード：学校改革　授業研究　学びのイノベーション　教職専門性の開発　学びの共同体

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

アジアの国々は、長らく日本の近代化をモデルとする学校教育の様式を採用してきたが、 グローバリゼーションの進展によって、その有効性に破綻が生じ、過度の受験競争による社会移動や中央集権的統制から脱却し、知識基盤社会に対応した質と平等の同時追求を掲げて、分権改革による学校教育のイノベーションを推進してきた。この新たな時代に対応して、本研究プロジェクトの申請者が約 30 年前に創発した「学びの共同体」を標榜する学校改革と授業研究は日本のみならず、中国、韓国、台湾、香港、シンガポール、インドネシア、ベトナム、タイなどの国々において学校改革の最大の推進力になっている。

２．研究の目的

本研究は「学校改革と授業革新のアジア・ネットワークー学びの共同体の実証的研究―」を主題としている、アジア地域の日本、中国、韓国、台湾、香港、シンガポール、インドネシア、ベトナム、タイなどの諸国は、国際経済競争を背景として、学校改革と授業革新が最もドラスティックに展開している地域である。グローバリゼーションと知識基盤社会への対応を契機として、「学びの共同体」の学校改革は、「21 世紀型の学校教育」のモデルとして多くの国々で国家政策もしくは准国家政策の一部となり、授業と学びのイノベーションの最大の推進力の一つとなった。本研究プロジェクトは、アジア諸国における 20 年近い「学びの共同体」の学校改革の実態と効果に関する実証研究を推進し、さらなる研究と実践の発展を促進することを企図して実施された。

３．研究の方法

本研究は以下の４つの方法を総合して実施した。その第一は、社会的、歴史的、文化的、政治的背景を異にする国々における学校改革の比較研究である。学びの共同体の改革は、ヴィジョンと哲学と活動システムを共有しているが、実践と政策においては各国の文脈に応じて多様な展開を遂げてきた。各国の文脈による政策と研究と実践の多様性は、どのような理論モデルによって解釈できるのだろうか、各国の事例の研究と比較による理論構築を追求した。

第二は、教師政策と学校改革との関係に関する比較研究である。各国の教師政策の違いが、学びの共同体の改革にどのように機能しているかを検証した。

第三は、質の高い学びの創造を基礎づける学習科学と授業研究である。学びの共同体の授業革新においては、「聴き合う関係」を基盤とした「探究」と「協同（協働）」を組織し、「真正の学び（authentic learning)」を「ジャンプの学び（高いレベルの探究)」によって追求してきた。その基盤には最新の学習科学の知見が横たわっている。すでに各国で質の高い深い学びが実現している現在、それらの実践の理論的基礎を確かなものにする研究を推進した。

第四は、学びの共同体の学校改革と授業革新によって達成される教職専門性の開発の様態を解明する課題である。本研究における教職専門性の開発は、教職の公共的使命と職業倫理、教科と教育学の専門的教養、実践的見識、専門家共同体の構築など、教職専門性の主要な内容のすべてを伴って実施されている。その実態と開発プロセスの解明を本研究の課題の一つとした。

４．研究成果

本プロジェクト研究は、2014 年以来、研究代表者が継続してきた「学びの共同体の学校改革」の研究と実践の国際交流を推進し、各国における改革の達成度を実証的に検証することを目標として実施された。

この目標追求において、2020 年度と 2021 年度は新型コロナ・パンデミックによって海外渡航と対面式国際会議が不可能となり、この制約により 2020 年度の計画の 1 部は 2021 年度に持ち越したが、2021 年度も上記の制約は継続した。

しかし、2 年間にわたる多くの制約にもかかわらず、本プロジェクト研究は「21 世紀型の授業と学び＝探究と協同の学び」を各国の事情に即して推進し、研究対象とした諸国において期待以上の前進を達成した。具体的には、本研究に協力した中国、韓国、台湾、インドネシア、タイ、ベトナム、イギリス、メキシコの諸国で多くのシンポジウムと教師研修ワークショップをオンラインで開催し、新型コロナ下においても「21 世紀型の学校」を標榜する授業と学びのイノベーションを推進することができた。

海外の拠点大学が構築されたのも成果の一つである。中国の北京師範大学、台湾の国立教育大学と淡江大学、タイのリュラロンコルン大学、インドネシア教育大学、シンガポールの国立教育研究所、イギリスのケンブリッジ大学、メキシコのイブロ・アメリカーナ大学、オーストラリアのモナシュ大学などは、それぞれの国の学びの共同体の学校改革の研究拠点として活動してい

る。

さらに本研究プロジェクトの成果の一つは、参加した各国の研究者、特に若手研究者による多数の論文発表と翻訳出版である。各国の教育研究者相互のネットワークおよび国際間の研究ネットワークを緊密化したことによる成果である。

また、これまで「学びの共同体の学校改革」は、日本、中国、韓国、台湾を中心に推進されていたが、タイ、インドネシア、ベトナムなどの東南アジア諸国において顕著な発展をとげ、イギリスやドイツなどのヨーロッパ諸国、南アフリカ共和国、そしてメキシコを中心とする中南米諸国にも拡大してきた。

この国際ネットワークの拡大は、新型コロナによる学校閉鎖と学びの規制によって、子どもたちの学びの権利が著しく制約され、学びの質量の低下による「学びの損失（learning loss)」がどの国においても深刻化した背景がある。本プロジェクト研究は、「平等公正な教育（equitable education)」と「学びの再革新（re-innovation of learning)」を改革課題に掲げて、各国の深刻な現実に対応してきた。

上記の成果の一つとして、第 8 回国際会議には 31 か国から 2,100 名、第９回目の国際会議には、21 か国から 2,000 名の研究者と教師がオンラインで参加した。新型コロナ下において所期の海外調査と海外での国際会議は実現しなかったが、2020 年度と 2021 年度において、オンラインによる改革ネットワークへの参加国と参加人数が一挙に拡大したことは重要な成果であった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 三河内彰子・一柳智紀・木村優・長谷川友香・秋田喜代美	４．巻 60
２．論文標題 探究的な学びを通した生徒Agencyの変容過程の検討：中高生の「声」にもとづく発話分析とエピソード分析	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	６．最初と最後の頁 663-679
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 ピーター・モス、佐藤学	４．巻 162
２．論文標題 レッジョエミリア再考	５．発行年 2020年
３．雑誌名 発達	６．最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 佐藤学	４．巻 162
２．論文標題 レッジョ・エミリアの教育とピーター・モス教授から学ぶ教育学の新しい物語り	５．発行年 2020年
３．雑誌名 発達	６．最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤学	４．巻 135：1737
２．論文標題 教育と教育の空間の対応	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本建築学会『建築雑誌』	６．最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 秋田喜代美	４．巻 2020-6
２．論文標題 学び続ける教師	５．発行年 2020年
３．雑誌名 文部科学省『初等教育資料』	６．最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤学	４．巻 622
２．論文標題 教員養成と大学―危機と改革―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 IDE現代の高等教育	６．最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 秋田喜代美	４．巻 1606
２．論文標題 これから求められる資質・能力をはぐくむ授業のために	５．発行年 2020年
３．雑誌名 信濃教育	６．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤学	４．巻 86-3
２．論文標題 図書紹介：教育社会学会編『教育社会学のフロンティア１：学問としての展開と課題』『教育社会学のフロンティア２：変容する社会と教育のゆくえ』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 教育学研究	６．最初と最後の頁 411-412
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋田喜代美	4．巻 65－8
2．論文標題 教師のライフコースと学び	5．発行年 2019年
3．雑誌名 指導と評価	6．最初と最後の頁 6－8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋田喜代美	4．巻 8
2．論文標題 授業実践の記述と論文化	5．発行年 2019年
3．雑誌名 授業UD研究	6．最初と最後の頁 46－53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋田喜代美	4．巻 52－7
2．論文標題 協働的・探究的な学びと評価のために　上	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月間高校教育	6．最初と最後の頁 5－9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 秋田喜代美	4．巻 52－8
2．論文標題 協働的・探究的な学びと評価のために　下	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月間高校教育	6．最初と最後の頁 5－9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計25件（うち招待講演　25件／うち国際学会　21件）

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 High Quality Learning for Transformative Society: Beyond the COVID-19 Pandemic
３．学会等名 Global Education Summit, Northeast Normal University, China（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 秋田喜代美
２．発表標題 地域の色から始まる探究学習：新たなクロスカリキュラムの方向性
３．学会等名 美術科教育学会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤学
２．発表標題 喪失される学びのアクチュアリティ―新型コロナ対応と第４次産業革命―
３．学会等名 東京芸術祭（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 High Quality Learning for Transformative Society: Beyond the COVID-19 Pandemic
３．学会等名 The 12th International Conference of Lesson Study, Indonesian Association of Lesson Study（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤学
２．発表標題 第４次産業革命と教育の未来
３．学会等名 日本教師教育学会大会課題研究１（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Progress of School as Learning Community in China
３．学会等名 The 4th Teacher Education Summit, Keynote Speech, Beijing Normal University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤学
２．発表標題 ポストコロナ時代のICT教育
３．学会等名 北海道教育学会研究大会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Challenges of Reforming School as Learning Community in Response to the COVID-19 Pandemic: Learning Recovery and Its Innovation
３．学会等名 The 9th International Conference of School as Learning Communities, The University of Tokyo,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kiyomi Akita
２．発表標題 Lesson Studies for Slow Pedagogy：Capturing the Critical Moments when Children’s Desire to Learn Begins to Take Hold.
３．学会等名 The 9th International Conference of School as Learning Communities, The University of Tokyo,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Inquiry and Collaboration in Innovative Schools: Design and Reflection of Teachers
３．学会等名 Chinese Society of Education, 51th Annual Meeting by On-Line, Shanghai, China（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Re-innovating Learning of Inquiry and Collaboration: Toward High Quality and Equitable Education
３．学会等名 The 11th International Conference of Lesson Study and the Ist International Conference on Learning Improvement（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Designing Future Education in With- and Post-COVID 19 Society.
３．学会等名 Dongqian Education Forum: The First Summit, Dhejiang Dongqian Educational Research Institution, Shanghai, China,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Equitable Education and Re-Innovation of Learning under COVID 19,
３．学会等名 World Association of Lesson Studies Annual Meeting, San Francisco, Time Zone 3. Singapore,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 School as Learning Communities in With COVID-19 and Post Corona Society: Hope for the Future through Collaborative Inquiry
３．学会等名 Opening Remark in the 8th International Conference of School as Learning Community,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Inquiry with Collaboration in School as Learning Community: Why Re-innovation of Learning and Equitable Education are the Keystones for the Post Corona Society?
３．学会等名 The 8th International Conference of School as Learning Community,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Lesson Study as A Case of School as Learning Community: Variations of Policy and Practice in Japan and Asian Countries.
３．学会等名 World Education Research Association 10th Focal Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Issues and Possibilities of Liberal Arts Education: Problem Setting
３．学会等名 World Education Research Association 10th Focal Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Lesson Study in Schools as Learning Community; Policy and Practice in Asia
３．学会等名 Expert Seminar, World Association of Lesson Studies, Amsterdam,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Inquiry and Collaboration in School as Learning Community: At Both of Classrooms and Staff Room
３．学会等名 EDUCA 2019, The 7th International Conference of School as Learning Community, Bangkok,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Manabu Sato
２．発表標題 Inquiry and Collaboration in Learning Community: Theory and Practice
３．学会等名 The 10th International Conference of Indonesian Association of Lesson Studies, National Padang University, Indonesia（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akita,K. & Sato,M.
２．発表標題 Observing Japanese Classrooms with DVD and Doing Lesson Study to Build Learning Communities
３．学会等名 World Education Research Association 10th Focal Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akita,K.
２．発表標題 The system of professional development for early childhood educators.
３．学会等名 World Education Research Association 10th Focal Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akita,K.
２．発表標題 Exploring the variations of Lesson Study within and across contexts: The experience of Japan
３．学会等名 World Education Research Association 10th Focal Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akita,K.
２．発表標題 How do Teachers and Children Inquire about Challenging(Jumping) Tasks in Their Classrooms for Deep Learning?
３．学会等名 EDUCA 2019, The 7th International Conference of School as Learning Community, Bangkok,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 秋田喜代美
２．発表標題 コンピテンシーベースの探究学習：新学習指導要領の改訂のもとで
３．学会等名 華東師範大学国際教育課程シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計13件

１．著者名 佐藤学	４．発行年 2021年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 78p.
３．書名 第四次産業革命と教育の未来―ポストコロナ時代のICT教育	

１．著者名 牧田秀昭・秋田喜代美	４．発行年 2021年
２．出版社 左右社	５．総ページ数 286p.
３．書名 物語る校長：新しい教育リーダーシップ	

１．著者名 秋田喜代美・藤江康彦（編著）	４．発行年 2021年
２．出版社 教育図書	５．総ページ数 322p.
３．書名 これからの教師研究~20の事例にみる教師研究方法論	

1．著者名 佐藤学	4．発行年 2021年
2．出版社 小学館	5．総ページ数 295p.
3．書名 学びの共同体の創造―探究と協同へ―	

1．著者名 Manabu Sato	4．発行年 2021年
2．出版社 Springer	5．総ページ数 278p.
3．書名 Learning to Teach in Professional Community: Enhancing Teacher Knowledge in Practice, X, Zhu & H, Song eds .Envisioning Teaching and Learning of Teachers for Excellence and Equity in Education	

1．著者名 ダン・ローティ著・佐藤学監訳	4．発行年 2021年
2．出版社 学文社	5．総ページ数 378p.
3．書名 スクールティチャーー教職の社会学的考察	

1．著者名 アンディ・ハーグリーブス（著），マイケル・フラン（著），木村優・篠原岳司・秋田喜代美（監訳）	4．発行年 2021年
2．出版社 金子書房	5．総ページ数 406p.
3．書名 専門職としての教師の資本：21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン	

１．著者名 佐藤学	４．発行年 2021年
２．出版社 Education $ Practice Co. Ltd. South Korea	５．総ページ数 99p.
３．書名 第４次産業革命と教育の未来』韓国語版　孫于正訳	

１．著者名 佐藤学	４．発行年 2020年
２．出版社 北京師範大学出版集団	５．総ページ数 75p.
３．書名 学校改革―学習共同体的構想与実践―	

１．著者名 田中智志・総監修、佐藤学・藤井千春・小玉重夫・松浦良充・松下良平監修	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 294
３．書名 「解題『明日の学校』―その歴史的な文脈と意義」『デューイ著作集７　明日の学校』	

１．著者名 日本教科教育学会	４．発行年 2019年
２．出版社 教育出版	５．総ページ数 191
３．書名 「教科とは何か」（池野範男と共著）『教科とその本質』第一章	

１．著者名 東京大学教育学部教育ガバナンス研究会(編)	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 304
３．書名 「授業研究システムにおける教師の専門的学びの変革」『グローバル化時代の教育改革:教育の質保証とガバナンス』	

１．著者名 秋田喜代美・藤江康彦（編）	４．発行年 2019年
２．出版社 『これからの質的研究法：１５の事例にみる学校教育実践研究』	５．総ページ数 391
３．書名 東京図書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

International platform for SLC
school-lc.com

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	秋田　喜代美 (Akita Kiyomi) (00242107)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計4件

国際研究集会 The 9th International Conference of School as Learning Communities	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 8th International Conference of School as Learning Community	開催年 2020年～2021年
国際研究集会 The 7th International Conference of School as Learning Community	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 World Education Research Association, Sympoium	開催年 2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	ケンブリッジ大学			
中国	北京師範大学			
タイ	チュラロンコン大学			
インドネシア	インドネシア教育大学			
オーストラリア	モナシュ大学			
韓国	韓国学びの共同体研究所			
その他の国・地域　台湾	淡江大学	台北師範大学		
メキシコ	イブロ・アメリカーナ大学			